

祝島と福島とそして海に生きる人たちを追った  
ドキュメンタリー映画制作ご協力のお願い

# 祝いのり福の海

inori-no-umi  
(仮題)

テーマは「海」と「命」  
古代、人は自然の一員として、  
日々の恵みに感謝し、  
お互いに気遣い笑い合い、  
生きていたのだろう。  
いつしか僕たちが  
忘れてしまったもの。  
太古からかすかに  
受け継がれて来た  
こころを呼び起こす旅。  
それは一人の  
海に生きる人との  
出会いから始まった。

フリージャーナリスト  
東条 雅之



## 映画製作者プロフィール

1984年生まれ、大阪出身。北海道大学農学部卒業。2007年から7ヶ月半に渡り、アジア、アフリカの10数カ国を旅し、世界は「でっかい宝島」であると実感。2009年、自然と共生する人たちを巡る中で、山口県の「祝島」に出会い、上関原発の建設予定地から発信を続ける。2011年、東日本大震災と福島原発の事故以降は福島にも通う。人と自然が共生し、いのちを生かす社会を目指し奔走中。ホームページ「スナメリチャンネル」にて発信。

## 〈資金協力について〉

チラシについて郵便振替用紙をご利用下さい。  
口座番号 00910-6-201437(店番号 099)  
名義 スナメリチャンネル

- \*一口1000円にてよろしくお願い致します。
- \*映画のエンドロールにお名前を掲載させて頂きたいと思ひます。(用紙にて 可/不可の選択して下さい)
- \*メッセージは通信欄にお書き下さい。
- \*お寄せ頂いた協力金は全額映画の製作費(主に交通費や機材など)に充てさせて頂きます。
- \*「こんなことで映画に関わりたい、協力したい!」という方がいらっやいましたらお気軽にご連絡下さい。

## 〈お問い合わせ先〉

「スナメリチャンネル」東条雅之  
ホームページ <http://sunamerichannel.jimdo.com/>  
Tel: 080-3809-6791 Mail: [sunamerichannel@yahoo.co.jp](mailto:sunamerichannel@yahoo.co.jp)

祝島や予定地から映像の発信を続けて1年半が経った頃、埋め立て工事が強行されようとしていた矢先に、東日本大震災と福島原発の事故は起きた。いてもたってもいられず福島に赴くと、放射能に汚染された海を前にして「身を切られた想い…」と語る漁師さんがいた。

祝島の「海」と福島の「海」。そして自分たちの中にある「海」。本来つながっているはずのこれらの「海」を、命のつながりを、この映画で描きたい。それは僕たちが忘れてしまった大切なものを呼び起こす旅に他ならないと思っています。皆さんに応援して頂けると、これ程うれいことはありません。

同時期に出会ったのが、対岸に原発計画がある「祝島」の人たちだ。海や山の恵みで生きてきた島民は「海は売っていない!」と体を張って、それを命をかけて原発予定地で抵抗していた。そこには、祝島の人たちと共に海を守ろうとする冒険家でカヤックガイドの原さんや全国から集まった多くの人たちの姿もあった。

そんな問いを持って来た僕は2009年、山口県の長門市で塩づくりをしている「百姓庵」の井上さんに出会った。「海は全ての生物(いのち)のお母さん」「生物は自分の体内に海をつくることで陸に上がった。母なる海と僕たちをつなぐへその緒の役割をしているのが塩なんだ」。海に生きる井上さんの言葉には実感がこもっていた。

「いのちはどこから来て、どこに行くのだろう」  
「この地球の上で平和に生きるにはどうすればいいのか」